

令和7年度研究推進計画

学校名 東広島市立原小学校

学校長名 中野 詠美子

1 研究主題，研究内容・方法等について

(1) 研究主題

イメージを豊かに働かせて読む力を高める国語科授業づくり
～「単元づくりの工夫」と「書かれている内容をイメージさせる工夫」を通して～

(2) 主題設定の理由

令和3年1月に、中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」が答申された。社会の変化が加速度を増し複雑で予測困難になっている中，「令和の日本型教育」の姿としてICTを活用しながら，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが示されている。

学習指導要領における国語科の目標は，「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」である。そして，「思考力・判断力・表現力等」に関する目標は，「日常生活における人と人との関りの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う」である。このことは，国語科において人と人との関わりの中で，言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高め，言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養い，未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」として育成することの重要性を示している。

本校では一昨年前から，本校の大きな課題である児童の学力向上を目指して，あらゆる学習の基盤である国語で理解したり表現したりして，考えを形成し深める力を身に付けるために国語科の授業づくり，中でも児童の「読む力」を高めることに焦点をあて説明的文章教材の授業づくりに取り組んでいる。

昨年度は，1年次から取り組んできた「単元づくりの工夫」と「交流の場の工夫」をさらに進めるとともに，考えを共有することが簡単にできたり，アウトプットからフィードバックの時間が短縮されたりする等の良さのある1人1台端末を交流の場で効果的に活用する方法を工夫することで，「読む力」の向上を図った。その結果，児童は単元のゴールイメージを明確にもち，学習への目的意識と見通しをもって教材文を読み，主体的に学ぶことができた。また，1人1台端末を用いることで，自分の考えを表現することを苦手と感じる児童も，タブレット端末を介して短時間で多くの児童の考えを閲覧し，自分の考えと比較しながら交流し学びを深める姿が見られた。児童の意識調査のアンケートでも，「1人1台端末が学びを深めるのに役立つ」と感じている児童が年間を通じて90%を超え，児童の「わかった」「できた」という実感につながったと考える。単元末のテスト（市販）の結果も全国平均点を上回り，「読む力」を向上させるのに一定の成果を上げたと考える。一方で，学力テスト等の制限時間内で長文を読解する問題では，課題が残った。一読で書かれている内容をイメージしながら読むことができない，図や資料と関連付けながら読み取ることが難しいという課題が見られた。また，低学力の児童は，言葉の力（漢字や語彙，適切に表現する力など）にも課題があり，言葉の意味が分からないことが読む意欲を低下させていると考えられることから，言葉の力を向上させる必要がある。

(3) 研究仮説

国語科の説明的文章教材の授業づくりにおいて、「単元づくりの工夫」（0次の工夫、ゴールとなる言語活動の工夫）や「書かれている内容をイメージさせる工夫」（語彙力を増やす交流場面の設定、ICT機器の効果的な活用等）を行えば、主体的・対話的な学びが実現し、児童はイメージを豊かに働かせて文章を読み、「読む力」が高まるであろう。

(4) 研究内容

- ① 児童が見通しをもち、主体的に学びに向かう「単元づくりの工夫」
 - ・児童の学習目標となる言語活動の工夫
 - ・児童の興味関心を引き出す0次の工夫
 - ・自己の学びの高まりを自覚させる振り返りの工夫
- ② 「イメージを働かせて読む力」を高めるためのICT機器の効果的な活用
 - ・図や資料と文章を関連付けて読み取らせる工夫
 - ・「読む力」を高める1人1台端末の効果的な活用方法
- ③ 授業を充実させるためのスキル向上を図るプログラムづくり
 - ・児童の端末活用スキルを向上させる「タブトレ」タイム
 - ・児童のコミュニケーションスキルを向上させる「トクトレ」タイム
 - ・児童の言葉の力を向上させ表現力の基礎をつくる「ことのは」タイム

(5) 検証の指標

評価する項目	評価の方法	実施時期	評価する内容
児童が主体的に読み、「読む力」を高める単元構成になっていたか。	児童アンケート	7月	肯定的評価90%以上
	単元後の振り返り	10月	授業後の振り返りによる記述内容の深まり、広がり等
朝タイムやICT機器の活用が「読む力」を高めることに効果的であったか。	児童アンケート	7月 10月	肯定的評価90%以上
	授業評価	5月～ 12月	研究授業における教師の相互評価が4.0以上（5段階評価）
説明的文章の読む力を高めることができたか。	確認テスト （たしかめよう）	7月 10月 2月	確認テスト（市販）で学級平均が85点以上
	標準学力調査	2月	標準学力調査における国語「読むこと」の正答率、全国平均以上

2 校内研修予定

月	研修内容
4 月	・本年度の研究方針 ・学習規律について（原小学びのスタイル） ・「タブトレ」タイム，朝タイム（「トクトレ」タイム，「ことのは」タイム）について）
5 月	・説明文の単元づくり等について理論研修 ・A グループ授業研究の指導案検討開始（～7 月）
6 月	・「ことのはタイム」について ・授業研究の指導案検討 ・研究授業（A グループ○，○年） ・ICT 機器の効果的な活用について
7 月	・授業研究の指導案検討 ・研究授業（A グループ○，○年） ・児童の意識調査と確認テスト
8 月	・全国学力学習調査の分析 ・前期前半の成果と課題について ・朝タイム（「トクトレ」タイム，「ことのは」タイム）について）の内容の見直し ・理論研究 ・B グループ授業研究の指導案検討開始（～12 月）
9 月	・研究授業（B グループ○年） ・ICT 機器活用について実践交流
10 月	・児童の意識調査 ・研究授業（B グループ○年）
11 月	
12 月	・研究授業（B グループ○年） ・研究のまとめ
1 月	・研究のめとめ
2 月	・研究のまとめ ・来年度に向けて
3 月	・来年度に向けて